

第3学年A組 外国語科学習指導案

指導者 牛木 豊 (TU)

菊地 裕之 (TK)

Richard Derksen (ALT)

1 単元名 Unit 6 Striving for a Better World (NEW HORIZON English Course 3)

2 単元の目標

(1) 人やものについて、詳しい情報を加えて説明しようとしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 人やものについて、詳しい情報を加えながらたずねたり伝えたりする。

【外国語表現の能力】

(3) 社会のために貢献した人物に関する資料を読み、その内容について理解する。

【外国語理解の能力】

(4) 接触節や関係代名詞の形・意味・用法を正しく理解する。

【言語や文化についての知識・理解】

3 生徒と単元

(1) 生徒について

英語の学習に対しては、関心の高い生徒が多い。また、授業での様々な活動において積極的に取り組むことができ、級友と英語でのコミュニケーション活動を楽しむ姿も多く見られる。

7月に行ったESDに関する生徒アンケートによると、『コミュニケーションを行う力』では、「聞き取る力：相手の意見を聞き、さらに自分の考えをもう一度見直し、よりよいものにする。」において、「よくできる」と答えた生徒は70%と高い。一方で、「表現する力：声量・抑揚・話す速度・アイコンタクトなどに気を配りながら話す」が40%程度に留まっている。相手の意見を受信して自らの思考につなげようとする意識は高いが、自分の意見を発信することに苦手意識がある。実際の教科指導においても、「聞くこと」「読むこと」においては十分力をつけている生徒は多いが、「話すこと」においては、よい意見をもっているにもかかわらず、全体の場で発表することをためらう傾向が見られる。

さらに、『批判的に考える力』：「自分の考えを吟味し再構築する。」や、『多面的・総合的に考える力』：「課題に対して、さらによりよい方法はないか考え出す」においては、「よくできる」が共に50%程度に留まっている。

このような課題があるものの、生徒は「読んだことについて事実や感想、理由などを話す」「教科書の要約文を書き、比較・検討を通して自分の考えを再構築する」などの活動に意欲的に取り組んできている。教師側がこれらの点に着目して指導を進めていくことで、より一層の成果が期待できる集団である。

(2) 単元について

本単元では、よりよい社会をつくり上げるために貢献したノーベル平和賞受賞者とその生き方が取り上げられている。特に、後半の読み物では軍事政権と戦い、ミャンマーの民主化を実現したアウンサンスーチーの生涯にスポットを当てている。

生徒はこれまで、ESDの視点から多様な学習を進めてきた。特に、総合的な学習の時間では様々な環境問題に注目して調べたり、海外の環境問題への取組については国際教養大学の留学生から話を聞いたりすることで理解を深めている。また、英語の授業では、アマゾン为主题にした単元で、説明文を読み森林伐採による環境破壊について考えた。

このようなつながりを考慮し、アウンサンスーチーについて読む前の導入として、

教科書の冒頭で紹介されている受賞者の1人であるワンガリ・マータイを取り上げることにした。ワンガリ・マータイはケニア出身の女性で、アフリカの緑化運動に貢献し、2005年日本を訪れた際には「もったいない」という言葉に感銘を受け、「MOTTAINAI」キャンペーンを実施した人物である。これまで環境問題について学習を進めてきている生徒にとって、最適の題材と言える。

また、文法項目としては接触節や関係代名詞を用いた文構造を扱う。これらはいずれも後置修飾であり、日本語とは全く語順が異なる、英語特有の表現である。人やものについて詳細な情報を加えて説明する上で有効であり、今後生徒が多様な英文を読みこなす際に欠かすことができない文法項目である。日本語との語順の違いに着目し、修飾・被修飾の関係を比較させながら理解を促すように指導を進めていきたい。

(3) 「大曲南中ESDの視点で身に付けたい力」を育成するための指導・手立てについて

① コミュニケーションを行う力

これまで4人のグループによる活動の場面を基本とし、お互いの考えを伝え合う活動を行ってきた。個人の考えをしっかりとった上で、グループ内で発表し合い、小黒板を用いて全体で共有するという流れで取り組んでいる。本校の生徒は、よい意見をもっているけれども全体の場で発表することが苦手であるため、4人という小集団で話し合った後で全体で発表するというステップは、非常に有効であると考えられる。また、自分の意見を発表する際には、英語による表現に加え、「なぜそう考えたのか」という理由についても、日本語を補足的に用いて説明することでより深まりのある学習にしたい。このような手立てにより、個々のコミュニケーションを行う力を高めていきたい。

② 批判的に考える力

グループでの話し合いによって、よりの確に表現しているものを選んだり、全体の場で各グループの表現を共有したりすることで、自分と他者の考えの共通点や相違点に気づく場としたい。そして、最後にまた個で考える時間を設けることで、自分の考えを吟味し再構築する力を育成したい。こうした学習活動を各単元で行い、生徒自身が何度も自分の考えを吟味することで、より深い考えや的確な表現ができるようになるものと考えられる。

③ 多面的・総合的に考える力

まとまりのある英文を読んで、その要約文を考えることは、英文の要点や概要を捉える上で非常に有効な手段である。また、書き手の意図に目を向けて、重要と思われる事実や表現を選んだり活用したりして要約することは、視点を焦点化することになり、本校が目指している「比較・検討を中心とした学び合い」につながるものと考えられる。このような活動を行うことで、より洗練された要約文を考えさせたい。

4 単元の評価基準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	人やものについて、詳しい情報を加えて説明しようとしている。
外国語表現の能力	人やものについて、詳しい情報を加えながらたずねたり伝えたりすることができる。
外国語理解の能力	社会のために貢献した人物に関する資料を読み、その内容について理解することができる。
言語や文化についての知識・理解	接触節や関係代名詞の形・意味・用法を正しく理解している。

5 単元の指導計画と評価規準（全8時間）

時間	学習活動	ねらい	関	表	理	知	評価規準【】は評価方法
1	○ノーベル平和賞受賞者についての英文を読み、接触節を用いた文の構造を理解する。	・人やものについて説明された内容を理解できる。 ・接触節の文の構造や意味、用法を理解する。				○	・人やものについての説明の内容を理解している。 【ワークシートの確認】 ・接触節の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 【後日ペーパーテスト】
2 本時	○ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイを紹介する英文を読んで要約し、それに対する自分の考えを述べる。	・まとまりのある英文を読んで要約し、自分の考えを加えて伝える。			○		・まとまりのある英文を読んで概要を把握し、その内容について要約したり自分の考えを述べたりしている。 【活動の実際】 【ワークシートの確認】
3	○人やものについて詳しく説明する英文を聞いて理解する。	・関係代名詞(主格)を用いた文の構造や意味、用法を理解する。				○	・関係代名詞(主格)を用いた文の構造や意味、用法に関する知識を身に付けている。 【後日ペーパーテスト】
4	○アレックスと咲の会話を聞き、話題にしていることについて正しく理解する。	・2人の会話の内容を聞いて、話題にしていることを理解する。				○	・2人の会話の内容を聞き、話題になっていることについて理解している。 【ワークシートの確認】
5	○アウンサンソーチーの「政治的側面」について概要を把握する。	・英文を読んで概要を把握し、その内容を理解する。				○	・英文を読んで概要を把握し、その内容を理解している。 【ワークシートの確認】
6	○アウンサンソーチーの「個人的側面」について概要を把握する。	・英文を読んで概要を把握し、その内容を理解する。				○	・英文を読んで概要を把握し、その内容を理解している。 【ワークシートの確認】
7	○身の回りの人やものを紹介する英文を聞いて理解する。	・人やものについて、詳しい情報を加えて説明しようとする。 ・関係代名詞(目的格)を用いた英文を聞いて理解する。	○				・人やものについて、詳しい情報を加えて説明しようとしている。 【活動の実際】 ○ ・関係代名詞(目的格)を用いた文の構造や意味、用法に関する知識を身に付けている。 【後日ペーパーテスト】
	○アウンサンソーチーの生き方について読んだことをもとに、	・その人物について、詳しい情報を加えて説明	○				・その人物について詳しい情報を加えて説明しようとしている。

8	自分が感じたこと，考えたことについて述べる。	しようとする。 ・読んだことを取り上げ，その生き方について自分の感想や考えについて書く。	○	【活動の実際】 ・とりあげたテーマについて，事実・感想・意見など，まとまりのある構成で書いている。 【レポート】 (CAN-DO リスト Writing Grade 8)
---	------------------------	---	---	---

6 本時の学習

(1) ねらい

ノーベル平和賞受賞者ワングリ・マータイについての英文を読んで要約し，自分の考えを加えて伝えることができる。

(2) ねらいを実現するための手立てについて

お互いの表現について伝え合う場面を設定し，視点を明確にして英文を比較・検討させることで，よりの確な要約文を完成させる。

(3) 学習課程

段階	学習活動	学習形態	指導上の留意点 ◎つまずきと手だて			評価
			TU	TK	ALT	
導入 10分	1 ウォームアップ	一斉	・既習の表現で伝え合う活動を行う。			
	2 前時の復習と本時の学習内容を提示する。学習課題を設定する。		・生徒とやりとりしながら復習し，課題を確認する。	・スクリーンに提示し，前時の内容を確認する。	・生徒の興味を喚起するよりに工夫する。	
読んだ英文を要約し，それについて自分の考えを述べるができる。						
展開 30分	3 英文を黙読し，概要をつかむ。	個	・前時で出た語句も活用して読み進めるように促す。	・机間指導で個別に対応する。		
	4 教師とのやりとりを通じて英文の概要を確かめる。	一斉	・生徒とのやりとりを通じて確認する。	・重要な語句について，板書で確認する。	・音声面で支援助し，生徒の理解を促す。	
	5 読んだ英文について要約文を考える。	個	◎表現方法等で困っている生徒には，ヒントとなる表現を示すなどして支援する。		・つづりや語いの選択において助言する。	
	6 グループ内で発表し，お互いの考えを伝え合う。よりの確に表現しているものを選ぶ。	グループ	・グループ内で決定する際の視点を明らかにする。	・理由を加えて伝えることを確認する。	◎発表の際，英語の発音等で自信をもてずにいる生徒に寄り添って支援する。	
比較・検討の観点 ・主語の選択		全体				・まとまりのある英文を読んで概要

	<p>・人物の功績についての記述</p> <p>7 各グループの発表を聞き、全体で共有する。 2</p>		<p>・発表がスムーズに進むように支援する。</p> <p>・各グループの内容を掲示する。</p> <p>・生徒が発表した英文について称揚する。</p>	<p>を把握し、その内容について要約したり自分の考えを述べたりしている。 【外国語表現の能力】 (活動の実際、ワークシート)</p>
終末 10分	<p>8 他の意見を参考に自分の英文を再検討する。 3</p>	個	<p>・書き直す際の視点を再確認する。</p> <p>・変容が見られた生徒を把握し紹介する。</p> <p>・つづりや語の選択において助言する。</p>	
<p>例)</p> <p>Wangari Maathai is the African woman to receive a Nobel Peace Prize. She taught <i>mottainai</i> and 4R's around the world. I think she worked hard to make the world better.</p>				
	9 振り返り		<p>・自己評価と振り返りを促す。</p> <p>・今日の学習課題を再確認する。</p> <p>・よかった点を称揚する。</p>	

ESDの観点との関わり

- 1** コミュニケーションを行う力
- 2** 批判的に考える力
- 3** 多面的・総合的に考える力